

令和8年度 全国学力・学習状況調査 京都市立小・中学校の調査結果について

標記調査結果が文部科学省から送付されましたので、概要について下記のとおりお知らせします。

全国的な学力調査に関する専門家会議・調査結果の取扱い検討ワーキンググループ報告書(令和7年6月6日)に基づき、調査結果を多面的に解釈することができる示し方としています。

本市では、学校ごとの状況は各学校が学校だより等で保護者・地域に報告することとし、教育委員会から学校別の成績を公表することは行っておりません。

今後、教育委員会では調査結果をより詳細に分析したうえで、追って「本市の全体的な傾向・課題・改善策」について公表し、指導の工夫・改善に活かしてまいります。

なお、国において都道府県・政令指定都市別のデータが公表されるのは9月以降の予定です。

1 実施日、実施教科等

- (1) 実施日 令和8年4月23日(木)
- (2) 対象学年 小学校第6学年、小中学校第6学年、総合支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、小中学校第9学年、総合支援学校中学部第3学年
- (3) 実施教科等 ①教科(国語、算数・数学、中学校英語(オンライン))に関する調査
②児童生徒質問調査及び学校質問調査(オンライン)
- ・児童生徒質問調査
 - …学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する内容を調査
 - ・学校質問調査
 - …学校における指導方法や教育条件の整備の状況等に関する内容を調査
- (4) 実施学校数・参加人数(4/23実施分)

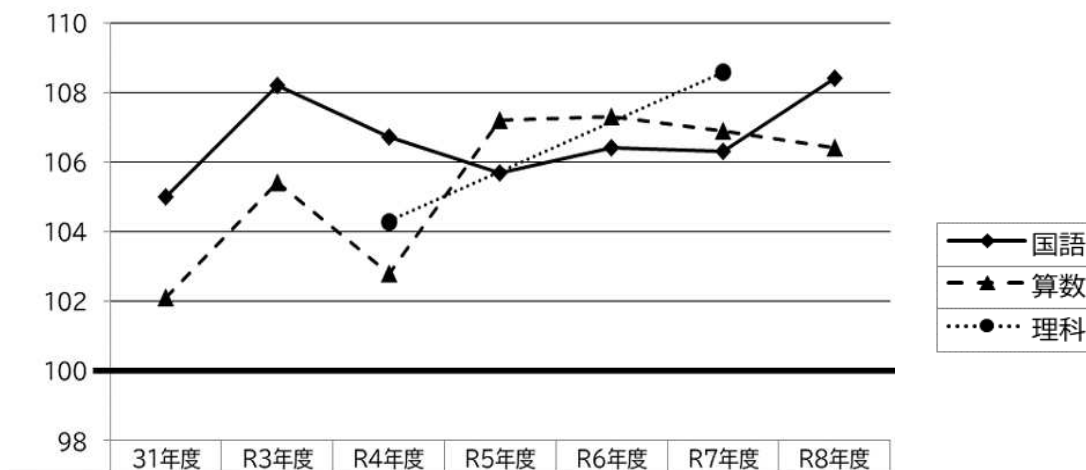
	実施学校数	参加人数(人)		
		国	算・数	英
小学校調査	155校(小中学校9校・総合支援学校1校含む。) ※第6学年が在籍しない宕陰小中は含まない。	8,777	8,793	—
中学校調査	73校(小中学校10校・総合支援学校1校含む。)	7,712	7,744	7,759

※総合支援学校は、桃陽総合支援学校(小・中学部)で実施。

2 教科に関する調査結果《概要》

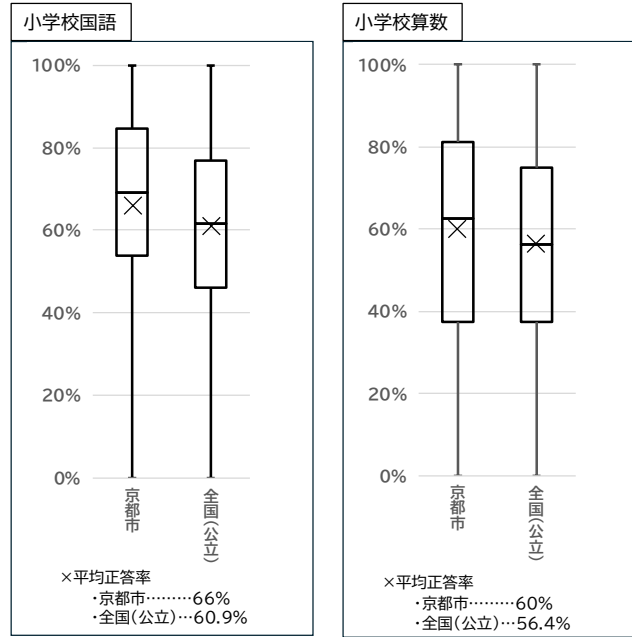
(1) 小学校

①正答率の対全国指数の経年比較 *全国平均を100とした時の本市平均の指数の推移



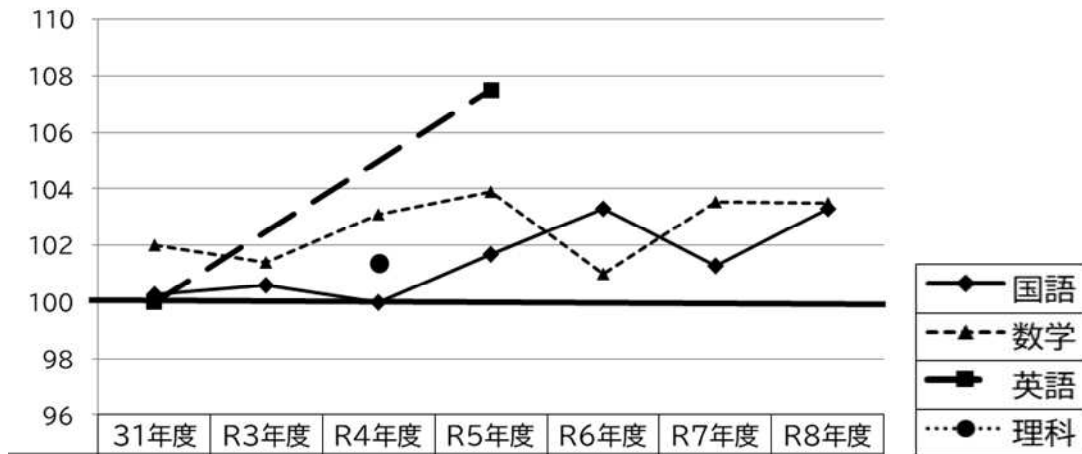
②各科目の正答率に関する箱ひげ図

* 文部科学省から提供される各自治体の平均正答率は整数値



(2) 中学校

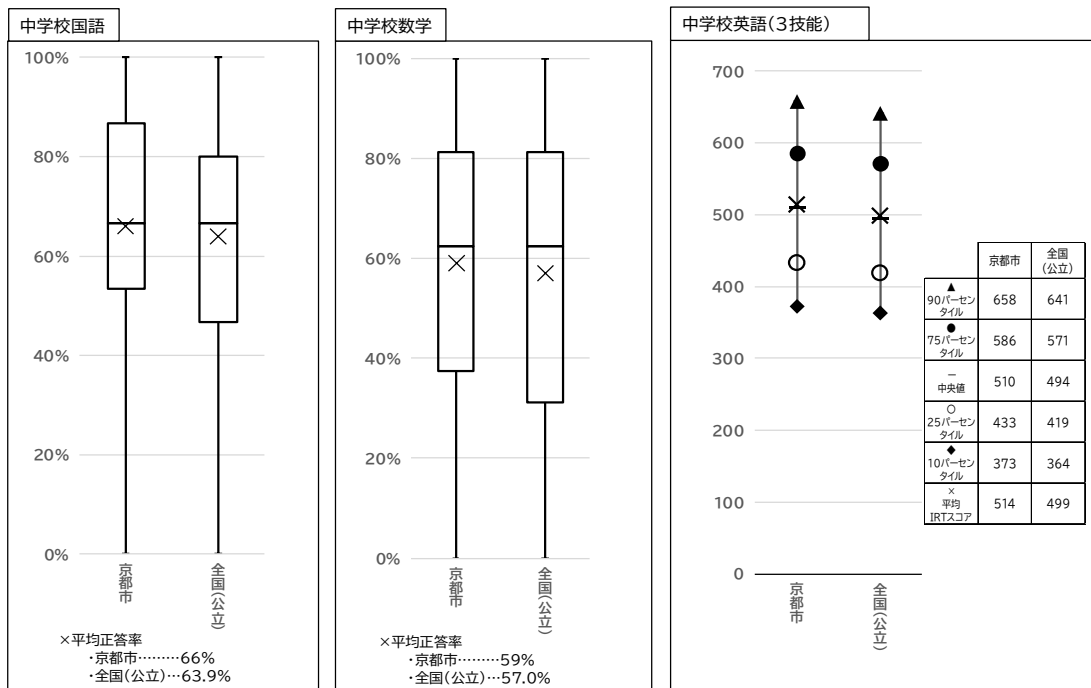
①正答率の対全国指数の経年比較 * 全国平均を 100 とした時の本市平均の指数の推移



※令和7年度の理科及び令和8年度の英語については、IRT方式による採点のため正答率が算出されないことから、上記グラフの集計対象外。

②各科目の正答率・IRTスコアに関する箱ひげ図

* 文部科学省から提供される各自治体の平均正答率は整数値



(参考) IRT (項目反応理論)

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論で、国際的な学力調査(PISA、TIMSS など)や英語資格・検定試験(TOEIC・TOEFL など)で採用されている。

異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較できることから、学力の経年変化をより正確に把握することができる。

学校ごと及び自治体ごとの結果は、平均正答率ではなく平均IRTスコアで表示される。また、児童生徒に返却される個人の結果は、5段階のIRTバンドで表示される。

3 教科に関する調査結果《詳細》※全国平均は国公立を含めた数値。

(1) 小学校国語

○全国的に、「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に課題が見られました。

◆「文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」ができるかどうかをみる問題

■国語 大問2四

提示された4つの条件を満たしながら、【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く。(記述式)

➤ 正答率 40.5% (全国平均 33.6%) 無解答率 3.9% (全国平均 5.1%)

➤ 正答のための各条件を満たして回答した割合はそれぞれ概ね全国の結果と同様の傾向を示した。

(2) 中学校国語

○全国的に、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること」に課題が見られました。

◆「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること」ができるかどうかをみる問題

■国語 大問4四

二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く。(記述式)

➤ 正答率 45.4% (全国平均 39.3%) 無解答率 14.2% (全国平均 18.3%)

➤ 正答のための各条件を満たして回答した割合はそれぞれ概ね全国の結果と同様の傾向を示した。

(3) 小学校算数

○全国的に、「立方体の体積の求め方の理解や、基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えること」に課題が見られました。

◆「立方体の体積の求め方の理解や、基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えること」に関する問題

■算数 大問1 (1)

1辺が8cmの立方体の体積を求める式を書く。(短答式)

➤ 正答率 74.0% (全国平均 72.9%) 無解答率 0.9% (全国平均 1.2%)

➤ 誤答となった回答の各類型の割合はそれぞれ概ね全国の結果と同様の傾向を示した。

■算数 大問2 (4)

赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ。(選択式)

➤ 正答率 38.0% (全国平均 34.5%) 無解答率 1.3% (全国平均 1.5%)

➤ 誤答となった回答の各類型の割合はそれぞれ概ね全国の結果と同様の傾向を示した。

(4) 中学校数学

○全国的に、「2直線が平行になる条件を理解すること」に課題が見られました。

◆「2直線が平行になる条件を理解すること」に関する問題

■数学 大問3

四角形PQRSにおいて、 $PS \parallel QR$ を示すための根拠となる二つの角を書く。(短答式)

➤ 正答率 51.0% (全国平均 49.6%) 無解答率 2.4% (全国平均 2.8%)

➤ 誤答となった回答の各類型の割合はそれぞれ概ね全国の結果と同様の傾向を示した。

(5) 中学校英語

○全国的に、「社会的な話題に関して読んだことについて、自分の考えを書くことはできているが、その理由を書くこと」に課題が見られました。

◆「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く」に関する問題

■中学校英語 問10(2)

インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く。(記述式/口述式)

- 正答率 30.3% (全国平均 28.4%) 無解答率 10.7% (全国平均 14.4%)
- 誤答となった回答の各類型の割合はそれぞれ概ね全国の結果と同様の傾向を示した。

4 質問紙に関する調査結果 ※全国平均は公立のみの数値。

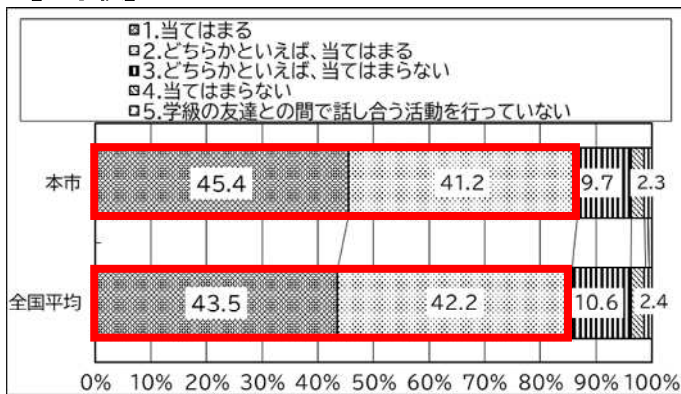
(1) 主体的・対話的で深い学び

○全体的に肯定的な回答の割合が増加傾向にあります。

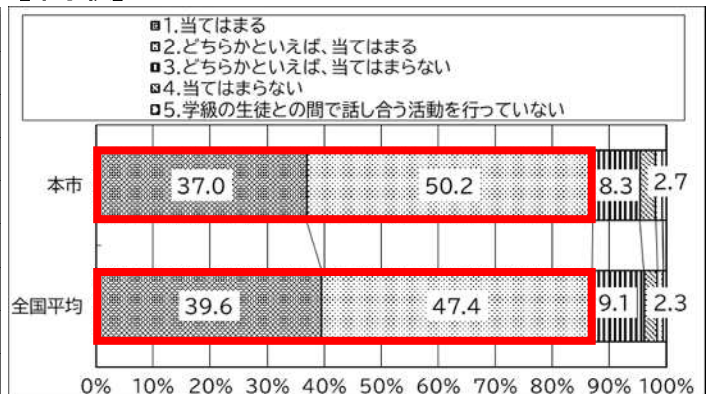
下記設問では、全国的に、80%以上の児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えており、本市においても同様の傾向が見られます(小86.6%、中87.2%)。

◆「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の回答状況

【小学校】



【中学校】

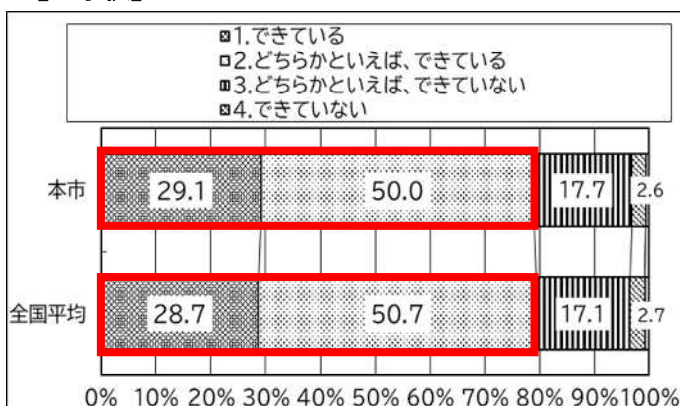


(2) 学びの自己調整

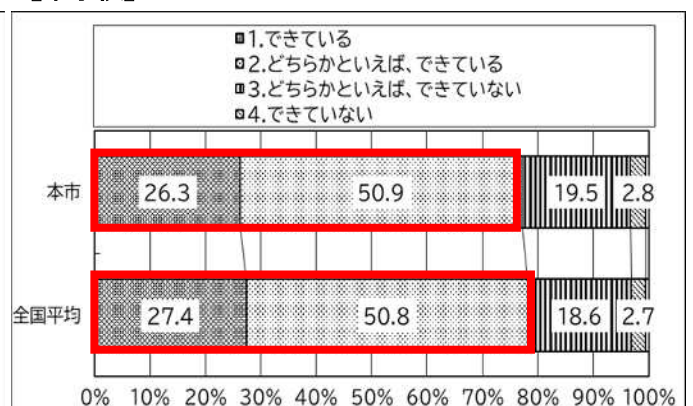
○全市では、小学校・中学校共に肯定的な回答の割合が全国平均をやや下回るも、概ね全国平均並みの結果となっています。

◆「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の回答状況

【小学校】

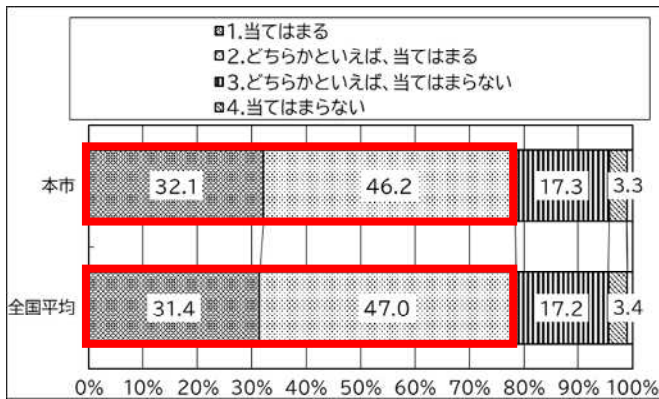


【中学校】

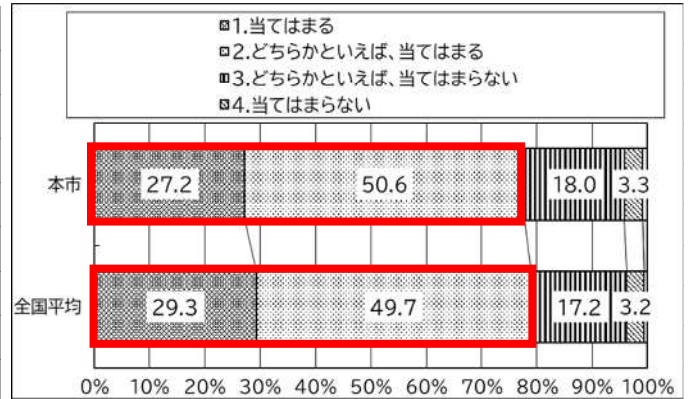


- ◆「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の回答状況

【小学校】



【中学校】



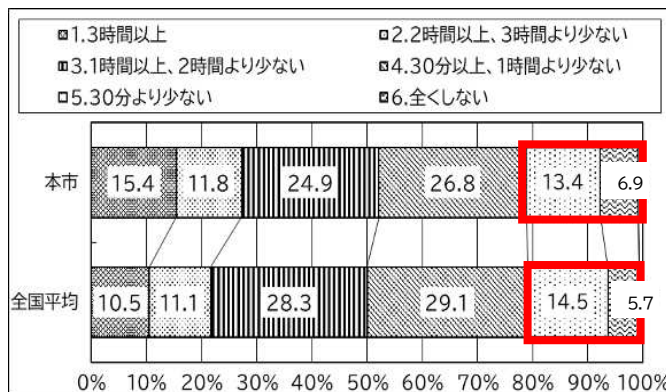
(3) 学習習慣

○全市では、以下に挙げる学習時間が短い児童生徒の割合が全国平均と比べ、小学校ではほぼ同じですが、中学校では高い状況であり、その差が大きくなっています。

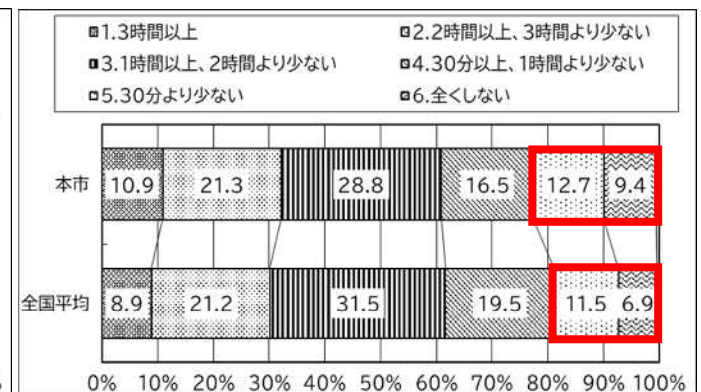
- ① 平日の学習時間について「30分より少ない+全くしない」と回答する児童生徒
- ② 土日の学習時間について「1時間より少ない+全くしない」と回答する児童生徒

- ◆「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の回答状況

【小学校】

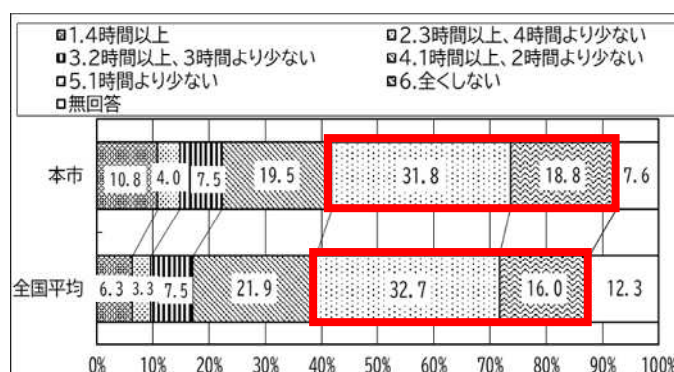


【中学校】



- ◆「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の回答状況

【小学校】



【中学校】

